



73 カードゲームで体験♪SDGsの世界 生活協同組合パルシステム神奈川

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校						理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由	言語障害											
		○	○	○	○				○	相談				○	○	○					
講義時間				2コマ							1日可能回数			(2回)							
実施時期条件など				9人以上で開催可																	
実施地域																					
学校に用意してもら				プロジェクター、スクリーン、机 (TVでも可)、HDMIケーブル																	
安全上の注意事項																					
HP				https://www.palsystem-kanagawa.coop/about/sdgs/2030sdgs_card_game/																	

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>ゲームを通して、自分の行動や選択が世界に影響を与えることが実感できる。さらに、SDGsの目標達成には、ほかの人々と協力することが必要だという気づきが得られる。 また自分から考え、行動をおこしていくことの楽しさを体験。</p>	<p>【写真】</p>  
<p>【アピール】</p> <p>社会の様々な課題に目を向け、自分事として考え、その解決のために他の人との協力関係をつくっていける、そんな人に成長できるお手伝いを。 関連科目：小学5・6年：「特別活動」「総合」身近な自然環境と環境問題、「家庭科」での実績がある。 中高大学：「総合」職業の選択と社会貢献</p> <p>先生向けの研修も実施可。実績として夏休みに家庭科教諭研修などを実施。</p>	

授業の進め方



<p>【導入】</p> <p>① 導入 (25分) ・SDGsの説明 (SDGs策定の背景) ・ゲームのルール説明</p>
<p>【発展～まとめ】</p> <p>② 発展 (35分) ・SDGsカードゲーム (前半10分) ・中間発表 ※ゲームの状況を解説、課題をピックアップ (5分) ・SDGsカードゲーム (後半15分) ・結果発表 (5分) ③ まとめ (30分) <各グループで振り返り (10分)・全体共有 (15分)・目標シート配布・説明 (5分)> ※この授業を受けて、今後、自分にどのような行動ができるのか、やってみたいのかを考えてもらう (宿題もしくは次回の授業等で実施)ためのシートを配布。【詳細は応相談】</p>
<p>【関連のあるSDGs】</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="width: 20%;">1 貧困をなくそう</div> <div style="width: 20%;">2 気候変動に具体的な対策を</div> <div style="width: 20%;">3 健康と福祉をすすめる</div> <div style="width: 20%;">4 質の高い教育をみんなに</div> <div style="width: 20%;">5 ジェンダー平等を実現しよう</div> <div style="width: 20%;">6 清潔な水とトイレを世界中に</div> <div style="width: 20%;">7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</div> <div style="width: 20%;">8 働きがいも経済成長も</div> <div style="width: 20%;">9 産業と雇用創出を促そう</div> <div style="width: 20%;">10 人や国の不平等をなくそう</div> <div style="width: 20%;">11 住み続けられるまちづくりを</div> <div style="width: 20%;">12 つくる責任、つかう責任</div> <div style="width: 20%;">13 気候変動に具体的な対策を</div> <div style="width: 20%;">14 海の豊かさを守ろう</div> <div style="width: 20%;">15 陸の豊かさも守ろう</div> <div style="width: 20%;">16 平和と公正をすべての人に</div> <div style="width: 20%;">17 パートナリシップで持続可能な発展をめよう</div> </div>

74 水はどこから来る？使った水はどこへ行く？






メタウォーター株式会社

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校						理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由	言語障害											
○	○	○	○	○	○						○	○			○		○		○	相談	
講義時間				1コマ						1日可能回数			(2回)								
実施時期条件など				平日の昼間※夏季休暇等の長期休暇期間を除く																	
実施地域																					
学校に用意してもら				授業用パワーポイントを投影するためのPC接続が可能な大型モニターとHDMIケーブル(またはプロジェクターとスクリーン)、延長ケーブル、バケツ3個、新聞紙(朝刊)2~3日分※生徒数により変動																	
安全上の注意事項																					
HP				https://www.metawater.co.jp/sustainability/contribution/education/																	

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>普段使っている水がどのようにして出来て、使った水はどうなるのか、水の循環について考えてもらう。水源かん養林(水源林)の役割や、浄水場で水道水ができる仕組み、使った水をきれいにする下水処理場の仕組みやその必要性・重要性などについて学ぶことで、水資源の循環について理解し、環境保全に主体的に取り組む意識と態度を育てる。</p>	<p>【写真】</p>  
<p>【アピール】</p> <p>水の循環について、座学と体験の双方で分かりやすく学べる講座である。体験では砂ろ過と膜ろ過の2種類の方法で泥水をろ過してきれいな水にする実験を行い、汚れた水がきれいになる様子を目で見て学ぶことができる。</p>	


授業の進め方

<p>【導入】</p> <p>パワーポイントにより、飲み水ができるまでの仕組み(浄水場)や、使った水をきれいにする仕組み(下水処理場)など水循環の話を聞く。学校の場所と、浄水場および下水処理場の位置関係を確認する。下水に流してよい紙とそうでない紙について、簡単な実験を行う。あわせて、水と森林の関係についての話を聞く。</p>
<p>【発展～まとめ】</p> <p>発展 座学で学んだ内容をふまえて2種類のろ過実験を行う。 ・自作した砂ろ過器またはアクリルケース砂ろ過器によって実際に泥水を砂でろ過する様子を観察する。(どちらの方法で行うかは時期や人数で決定) ・また、セラミック膜を使用したろ過実験器でも、実際に泥水をセラミック膜でろ過する様子を観察する。 ・2種類のろ過方法についてその違いを比較し、ろ過について理解を深める。 まとめ ※時間の都合等により、まとめはアンケートへの回答にする場合がある。 ・学習して気付いた事(感想)や印象に残った事についてグループごとに話し合いをする。 ・出てきた意見をまとめてグループごとに発表する。 ・講評</p>
<p>【関連のあるSDGs】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>6 きれいな水とトイレを世界中に</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 持続可能な都市とコミュニティ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>14 海の豊かさを守ろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>15 陸の豊かさも守ろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> </div> </div>

75 SDGsとサステナビリティ
公益財団法人地球環境戦略研究機関

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否			
小学校			中学校	高等学校	特別支援学校						理科	社会	国語	家庭科	総合	その他	講義	校内実験	校外体験	オンライン授業	大規模校対応
低学年	中学年	高学年			知的障害	視覚障害	聴覚障害	病弱	不肢自由	言語障害											
		○	○	○				○	○		相談	○	○			○			○	○	
講義時間				応相談							1日可能回数			(応相談)							
実施時期条件など				応相談																	
実施地域				横須賀三浦地区、藤沢市内、横浜市内。その他の地域は応相談																	
学校に用意してもら				HDMI接続可能大型モニター																	
安全上の注意事項																					
HP																					

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p>17のゴールを個別に学ぶだけでなく、それらが互いに関係しているシステムとしてのSDGsを理解する。特に、環境(地球環境の限界)がすべての基盤であるという考え方を軸に、社会や経済とのトレードオフをどう解消し、相乗効果(シナジー)を生み出せるかを考える。</p> <p>【アピール】</p> <p>達成年まで4年を切ったSDGsに関する最新の動向を共有する。また、研究機関が国内外で関与している様々なプロジェクトを、SDGsのレンズを通して紹介することで、サステナビリティ(持続可能性)についての考え方を深化させる。</p>	<p>【写真】</p> 
--	--




授業の進め方

<p>【導入】</p> <p>SDGsの成立過程や意義、世界・各国の進捗状況などについて最新のデータを交えつつ説明する。SDGsに取り組む意義や実際に行われている行動など、発達段階に応じて、わかりやすくかみ砕いて説明する。</p>
<p>【発展～まとめ】</p> <p>学校と相談の上、県内の具体的な課題や、研究者が関与しているテーマの一つを選んで、SDGsの視点からできることを考える。「あちらを立てればこちらが立たず(トレードオフ)」といった難しさや、「一つのアクションで複数の目標を達成するにはどうしたらよいか(シナジー)」について学ぶ機会にする。SDGsはゴールではなく、課題解決を考えるツールであることを伝え、最後に、自分の興味のあることから世界を変えていく「一歩」を応援して締めくくる。</p>
<p>【関連のあるSDGs】</p> 




76 特支視覚障がい者のための環境教室 特定非営利活動法人かながわ森林インストラクターの会

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否		
小学校			中 学 校	高 学 校	特別支援学校					理 科	社 会	国 語	家 庭 科	総 合	そ の 他	講 義	校 内 実 験	校 外 体 験	オ ン ラ イ ン 授 業	大 規 模 校 対 応
低 学 年	中 学 年	高 学 年			知 的 障 害	視 覚 障 害	聴 覚 障 害	病 弱	不 肢 自 由											
講義時間				応相談						1日可能回数			(応相談)							
実施時期 条件など				応相談																
実施地域				県内全域																
学校に用 意してもら				応相談																
安全上の 注意事項				応相談																
H P				https://www.forest-kanagawa.jp																

授業のねらい・アピール

【ねらい】	【写真】
<p>環境教育は持続可能な社会を構築する取り組みとして、市民団体・企業などによる外部支援も多いが、特別支援校、特に視覚障がい者に向けた体験機会は多いとは言えない。そのため、視覚障がい者向けの環境教育を提供するものである。</p>	 <p>丸太切り</p>
<p>【アピール】</p> <p>例として次のようなテーマで授業を行うことで、視覚障がい者に対して環境教育を提供し、自然に親しむ心を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸太切り(木を切る感触。匂いを嗅ぐ。年輪を数える)。 ・葉っぱの感触(色々な形の葉。葉っぱで笛を作る)。 ・鳥の鳴き声(鳴き声を聞く。手作り品で大きさを知る)。 	 <p>スギの葉・ヒノキの葉</p>  <p>葉巻笛</p>



授業の進め方

【導入】
<ul style="list-style-type: none"> ・事前打合せを行ない、当会からの提案、それに対する学校からの要望を踏まえて、授業カリキュラムを作成。(事前打合せと授業当日は、ある程度の期間を置き、その間で連絡を取りあう。また教材の準備を行う。) ・授業当日、講師の紹介、授業の目的と進め方を説明する。(何を体験するか予測できるように、授業由来を分かりやすく説明する)。
【発展～まとめ】
<p><内容および進め方については、事前に学校と話し合い決定する。以下例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸太切り:事前に講師が切り口を入れる。講師のフォローの下、ノコギリで木を切る。木の匂いを嗅ぎ、心地よいの香りを体験。金属ブラシで表面をこすり年輪を浮き上がらせて、年輪の数から木の年齢を知る。 ・葉っぱの感触:色々な形の葉があることを知る。葉を丸めて葉巻笛を作り鳴らす(太さによる音の違い)。 ・鳥の鳴き声:鳴き声を聞いて鳥の名前を知る。手作り品(ぬいぐるみ等、大中小)で大きさを知る。 ・年輪から、木は空気中の二酸化炭素を吸収して大きくなり、地球温暖化防止にも貢献していることを学ぶ。 ・色々な形の葉から、樹木さらには生物の多様性について知る。
【関連のあるSDGs】
  


77 SDGsと食品エコラベル サステナビリティ教育研究会

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否		
小学校			中 学 校	高 学 校	特別支援学校					理 科	社 会	国 語	家 庭 科	総 合	そ の 他	講 義	校 内 実 験	校 外 体 験	オ ン ラ イ ン 授 業	大 規 模 校
低 学 年	中 学 年	高 学 年			知的 障 害	視 覚 障 害	聴 覚 障 害	病 弱	不 肢 自 由											
		○	○																相談	相談
講義時間			2コマ							1日可能回数		(2回)								
実施時期 条件など			平日																	
実施地域			横浜市、川崎市、横須賀市、藤沢市																	
学校に用 意してもら			モニター、マイク、アンケート(紙の場合)																	
安全上の 注意事項			理科室で行う場合展示物の破損注意、教室の場合は一般的な注意																	
H P			https://www.facebook.com/yamaumisakana																	

授業のねらい・アピール

【ねらい】	【写真】
<p>SDGs1～17までを読み上げ説明。その上で、12「つくる責任つかう責任」を取り上げエコラベルとのつながりを話す。食品のパッケージについているエコラベルの紹介</p>	
【アピール】	
<p>①SDGs全般を説明、特に12番について深掘りする。児童が自分たちでSDGsを勉強するきっかけを提供する。 ②授業を受け、食料や自然にはいろいろな問題があることに気付く。その問題を解決するために エコラベルの付いた食品があることに気付く。 ③「持続不可能なスタイル」から「持続可能なスタイル」への変化が望まれていることに気づいてもらうことを意識したい。</p>	



授業の進め方

【導入】
<p>SDGsに関する写真から世界の格差の現実を理解する。1～17番を全員で復唱し、わかりやすく解説する。食品に関する簡単なゲームを行い、SDGsを身近に感じる。</p>
【発展～まとめ】
<p>現在食品の価格が上がっている理由の一つに資源の減少がある。しかし一方で食品の需要はますます伸びており、このままでは持続不可能となることも考えられる。この矛盾する現象を児童が知り、どのようにしたら解決に結びつか、水産物を例にとつて考える。持続可能な食品についているエコラベルを理解して、このラベルはSDGsの何番と関係するか、タブレットを使って、紐づけをする。</p>
【関連のあるSDGs】


78 SDGsと食品ロス
サステナビリティ教育研究会

対象学年										活用可能教科					実施方法			対応可否		
小学校			中 学 校	高 学 校	特別支援学校					理 科	社 会	国 語	家 庭 科	総 合	そ の 他	講 義	校 内 実 験	校 外 体 験	オン ライ ン 授 業	大 規 模 校 対 応
低 学 年	中 学 年	高 学 年			知的 障 害	視 覚 障 害	聴 覚 障 害	病 弱	不 自 由											
○	○	○									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
講義時間			2コマ							1日可能回数			(2回)							
実施時期条件など			第一希望:水曜、第二希望:月・火・木、																	
実施地域			横浜・川崎・横須賀・逗子・葉山・三浦・鎌倉																	
学校に用意してもらうも			○スライドを写すテレビ、またはスクリーンとプロジェクター、HDMIコード																	
安全上の注意事項			オンライン授業:校内配信拠点から各クラスへの配信授業の実績あり (校外配信拠点からの配信は不可とする)																	
HP			https://www.facebook.com/yamaumisakana																	

授業のねらい・アピール

<p>【ねらい】</p> <p><SDGsとは何かを学び、持続可能な食品ロス削減につなげる授業> 具体的にどんな行動をとれば、食品ロスを削減できるか、「つついちゃうっでしよう食品ロス行動」カードで遊びながら、気づきを得る。どんな気づきを得たかを子ども同士でシェアするよう、授業者がファシリテートする。 「食品ロス削減行動カード」を紹介し、子どもたちが具体的な対策を発言することで、子どもの行動変容、継続的な習慣化を狙う。 また、食品ロス削減がSDGsに繋がっていることを理解してもらう。</p> <p>【アピール】</p> <p>2025年度出前授業実績:5校 横浜市内の学校で学校司書として勤務しているバックグラウンドを活かし、子どもに寄り添った言葉でSDGsを説明。SDGsの内容理解だけでなく、講師が実践している具体的な行動を紹介し、子どもたちの身近な食品ロス体験や具体的な対策意見を引き出す。 ※当該クラスの実態に合わせて内容をカスタマイズできるので、事前打合せの際に希望をお聞きたい。</p>	<p>1.食品ロスにつながる行動〜つついちゃうっでしようだよね〜</p>  <p>【写真】 ←カードの一部です。</p> 
--	--

授業の進め方

【導入】

- ①発展途上国の様子が写っている写真絵本を見せ、今現在存在する世界の問題を解説。
- ②SDGsの目標17項目、ひとつひとつを概要説明。
スライドを使って、子どもとの会話を大切にしながらSDGsを子ども向けに分かりやすく説明する。
- ③SDGs17「つくる責任つかう責任」にフォーカス。
食品会社で長年勤めていた経験がある当代表から「つくる責任」について解説する。
また、食と二酸化炭素の排出は密接に関わっていることを説明する。

【発展～まとめ】

- ①食品ロス概要説明
- ②グループ内でカードゲーム
2-1: つついちゃうっでしようカードを講師の具体的なエピソードを交えて紹介し、ゲームのルールを説明する。
子どもたちが自分の生活を振り返り、気づきを発表する。
2-2: 食品ロス対策カードを具体的なエピソードを交えて紹介する。
子どもたちが自分のできる食品ロス削減の具体的な方法を宣言する。
- ③まとめ
食品ロス削減がSDGsに繋がっていることを解説する。
- ④子どもの感想発表、アンケート(Google Form、もしくは紙)に記入
紙に書いたアンケートには、後日、講師から返事を一人ひとりに書く。

【関連のあるSDGs】

